

雑 報

天文教育普及のための指導者講習会

国立天文台が発足し、天文情報普及室という組織が設けられ、その具体的な活動の第 1 回として「天文教育普及のための指導者講習会」が開かれた。この講習会の企画を本誌をはじめ、幾つかの雑誌に公表したところ、大きな反響を呼び、多数の申込みを受けた。第 1 回目であること、受講を希望される方々の所属機関・団体などが把握できない点など、未知の条件が山積する状態であったため、当初は定員 30 名としたが、申込みを受付始めるとたちまち定員をオーバーする様な状況であった。

30 名程度であれば会場も国立天文台の輪講室を当てることで納まるが、それ以上となると講義室を使用しなくてはならなくなる。主催者としては嬉しい悲鳴であった。しかし、それでも申込みにも実際の参加人数には違いができることは当然なので、ふたを開けてみないとわからない、という不確定な要素もあったことも事実がある。ところが、これも杞憂に終り、申込者のほとんどすべてが実際に参加され、天文台の講義室に集まった。

講習会は 3 月 27、28 の両日に亘り、先づ古在由秀台長の挨拶に始まり、天文台の研究者による最先端の天文学についての解説、さらに普及指導上で必要と思われるようないくつかの問題が、それぞれ 40 分間の講話と 20 分間の質問と討議という形式で進められた。第 1 回目の夜は、天文台のシンボル 65 cm 屈折望遠鏡の解説と木星観望が行われたが、望遠鏡の大きさや木星像に只感動するとうに留まらず、参加者が体験的に経験した具体的な問題、例えばシーイングと口径についてとか、口径と最適倍率などに対する鋭い質問が多くよせられた。

第 2 日目も初日に引き続き、現場の研究者による観測天文学や暦計算上の諸問題についての解説が前日と同じ要領で進められた。

今回は指導者講習会と銘打った会の第 1 回目であり、主催者側も参加者側も、それぞれの思惑と期待があり、



その思惑と期待が一致したり、また相反したことも多かったことと思う。しかし、何よりもその第一歩が印された点が大切なことと感じている。

今回の参加者は、最終的に 38 名であり、これは申込み者数 46 名の 83% であり、職業別に見ると教師（幼稚園 3%、小学校 6%、中学校 14%、高校・高専 22%）45%、プラネタリウム、科学館等の解説者 25%、図書館司書 3%、残る 27% がアマチュアの指導的立場にある人達という比率であった。

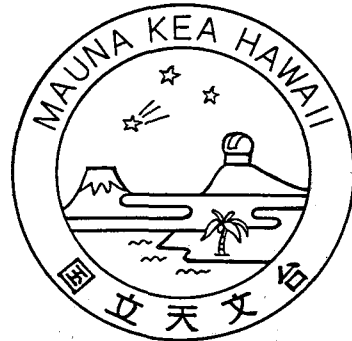
次に、参加者全員に配られた“指導者講習会要項”の日程表を記載し、次回の参加を望まれる方々への御参考としよう。1. 古在台長挨拶、2. 7.5 m 望遠鏡で見えるもの（小平桂一）、3. 天体写真を読む（香西洋樹）、4. 新天体その現状と対応（香西洋樹・平山智啓）、5. オーステン彗星を観測しよう（渡部潤一）、6. 65 cm 赤道儀式天体望遠鏡の紹介と木星の観望（畑中至純）、7. スペース VLBI について（森本雅樹）、8. 宇宙時代の天体暦（木下 宙）、9. 質問電話から（磯部瑠三）、10. 質疑応答。

なお、この要項の残部がありますので、ご希望の方は自分の住所・氏名を記入した B5 以上のサイズの返信用封筒に 120 円切手を貼って同封の上、〒181 東京都三鷹市大沢 2-21-1 国立天文台天文情報普及室指導者講習会宛に御請求下さい。（香西洋樹）

お 知 ら せ

JNLT ニュース創刊

大型光学赤外線望遠鏡設置調査費が平成 2 年度政府予算で正式に認められたのを機に、JNLT 計画に関する最新情報を「JNLT ニュース」として発行することになりました。当面はホットニュースを中心に不定期刊行で始めます。JNLT/WG 資料を見ているグループに配布させて載きますので、適宜、掲示等により関心のある方々にも見ていただけるようにご配慮載ければ幸いです。なお、JNLT ニュース創刊にあたり JNLT ニュース用のシンボルマークを天文月報 5 月号などで公募いたしましたところ、多数の方々から各種のデザインをお寄せ載せました。JNLT WG、ニュース編集委員会でも検討いたしました結果、沖田喜一、三神泉、匿名三氏の



原案をもとに下記のように決まりました。オリジナルな作品をお寄せ下さった皆様にお礼申し上げます。

国立天文台 JNLT WG ニュース編集委員会

日本宇宙生物科学会第4回大会開催のご案内

1. 会期 平成2年10月12日(金), 13日(土)
 2. 会場 名古屋大学東山キャンパス内
(名古屋市千種区不老町)
 3. 大会長 渡邊 悟(名古屋大学環境医学研究所)
- お問合せ先: 〒464-01 名古屋市千種区不老町
名古屋大学環境医学研究所
日本宇宙生物科学会第4回大会
運営委員会事務局
TEL (052) 781-5111 内線 5918
- 学会事務局: 〒229 神奈川県相模原市由野台 3-1-1
宇宙科学研究所
宇宙基地利用研究センター内
TEL (0427) 51-3911 内線 2727

国際天文学連合(IAU)に関して(募集)

第21回 IAU 総会が1991年7月23日から8月1日にかけてアルゼンチンのブエノスアイレス市で開催されます。IAU とその会員については、古在由秀氏による紹介記事(本誌1987年9月号)を参照してください。

IAU の国内委員会には、日本学術会議の天文学研究連絡委員会があたっています。次回の総会に関連して、国内委員会では下記の募集をしますので、希望者は1990

年11月30日必着で、

〒181 三鷹市大沢 2-21-1

東京大学理学部天文学教育研究センター

祖父江義明(天文学研究連絡委員会幹事)

まで申し込んでください。なお、国内委員会から推薦する方の名前は12月に決めます。

記

- 1) 新会員になるための推薦(申し込みの書式は天文学研究連絡委員会委員からもらってください)。
- 2) 非会員(新会員になろうとする者も含む)が総会に出席するのに必要となる招待状を受けるための推薦。ただし、出席者の登録されたゲスト(各1名以内)として参加する場合には招待状は不要。
- 3) 若い天文学者(Young Astronomers)が総会に出席するための補助(a: 登録料と滞在費, b: さらに旅費の一部も含む)を受けるための推薦。

なお、会員として認められるのは、原則としては、博士の学位を取得後、2, 3年以上天文学研究で実績を示した者、天文学研究と密接に関連した事柄で実質的または独創的な貢献をした者、となっています。

天文研連委員長

杉本大一郎

天体観測専門誌

月刊 天文ガイド

10月号 定価460円+税 9月5日発売

特集: この秋に見やすい 火星、土星の観測ガイド

火星と土星が、この秋見やすくなります。どこで、いつ探したらよいか——初心者のための観測ガイドを本号では特集します。天体望遠鏡を初めてのぞくとき、感激するのは月と土星だといわれます。ぜひ、この秋は親子で星空を楽しんでください。9月初旬レベーター彗星が明るくなります。火星、土星と一緒に観測のチャンスです。

New Face Test Report

マイコンスカイセンサー3・S型のテストレポート

- 10月の星空/月・惑星/星雲・星団/天体写真●10月の天文現象観測資料●観測ガイド●天文計算/ほか

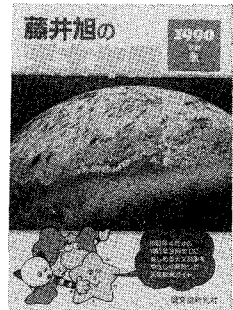
新刊案内

1990年度版 藤井 旭 の天文年鑑

藤井 旭 著

B6判/102ページ/定価530円(税込)+税

本書は、初めて星座をながめ、星の名前や星座の形を覚えたい人にも役立つように、1990年4月から1991年3月までの星空の移り代わりをやさしく星座図で再現しました。星空観測の楽しさを伝えます。



(本書の主な内容)

- ★毎月の星空ガイド(月別)★星座を見つけよう(春・夏・秋・冬)
- ★惑星(水星、金星、火星、木星、土星、天王星、海王星、冥王星、小惑星ジュノほか)★日食(7月22日部分日食)★月食(8月6~7日部分月食)★星食★流星群(ペルセウス座ほか)★彗星他

誠文堂新光社

東京都千代田区神田錦町1-5-5
☎03(292)1221・振替東京7-128

東北大学理学部天文学教室助教授公募結果

天文月報第83巻3月号(1990)に掲載された当教室の助教授公募については、下記のとおり決定しましたので報告致します。

氏名 斎尾英行
 現在の所属 東京大学理学部天文学教室・助手
 着任時期 1990年9月1日
 東北大学理学部天文学教室
 主任 竹内 峯

☆ ☆ ☆

☆ ☆

☆

計 報

本会元内地留学奨学金選考委員の大木俊夫氏には、かねて病氣療養中のところ、7月28日午前5時30分直腸癌のためご逝去されました。享年59歳。
 謹んでご冥福をお祈りするとともに会員諸氏にお知らせ致します。

◇ 9月の天文暦 ◇

日	時	分	記	事
5	10	46	望	
8	13	00	水星	内合
9	20	13	月	最近
12	5	53	下弦	
15	3	38	天王星	留
17	1	13	水星	留
19	9	46	朔	
23	11	33	土星	留
23	15	56	秋分	
24	1	17	海王星	留
24	13	01	水星	西方最大離角
25	7	14	月	最遠
27	11	06	上弦	
29	11	10	天王星	東矩

1990年6月の太陽黒点 (g, f) (国立天文台)

1	10,	117	11	13,	154	21	9,	41
2	—,	—	12	16,	233	22	8,	38
3	7,	67	13	—,	—	23	8,	45
4	—,	—	14	14,	166	24	6,	46
5	—,	—	15	—,	—	25	—,	—
6	10,	68	16	15,	150	26	—,	—
7	11,	97	17	9,	63	27	—,	—
8	14,	73	18	6,	87	28	—,	—
9	—,	—	19	9,	54	29	—,	—
10	—,	—	20	—,	—	30	12,	250

(相対数月平均値: 124.2)

◇ 9月の日月惑星運行図 ◇

